● 泣きながら：　ドイツ旅行代理店の日本人の方 曰く

「ドイツに来て 20 数年、こんなに嬉しい事は無い！」 との事。（**下記**のとおり）

その方曰く

「20 数年前にヨーロッパに来てカルチィエのカバンを 20 万円以上かけて無理に購入、この赤茶のカバン。

先日修理に出したら無料サービスだった、さすがカルチィエ」 と 「ヨーロッパの老舗自慢」をした。

私は「日本の老舗、例えば、、犬印カバン等も無料サービスじゃないですか？」と最初に話していた。

記

● 1985 年 2 月 ドイツの旅行代理店 日本人の方のご案内で老舗のビアガーデンに夜 飲みに行く。

日本大学 4 年生 ヨーロッパ旅行で班長だった為 班員 7 人を連れて、飲み会の始まり。　酒場で知り合った

ドイツ人 曰く　「なぜ日本人はアメリカの言いなりなのか」

私 曰く　「核爆弾被爆国が核放棄して民主主義に徹しているだけでアメリカの言いなりでは無い」

ドイツ人 曰く　「腕相撲で勝負しろ」。 もう誰にも負けられない立場。身長 185 ㎝以上の大男との勝負。

「レディー ゴー」 2 秒で勝てた。そうした途端 5 人位の見るからに屈強なドイツ人達が私の前に列を成した。

当時の日大応援団で最少 168cm の私が**腕相撲で全員に勝つ**。 腕相撲は腕力のみではなく「気合い」が必要。

20 歳代には、日本で腕相撲で本気で負けたのは全日本プロレス 小橋氏のみ、他 3 名のプロレスラーに勝つ。

いい勝負をしたのは日本大學菊心會野澤氏 櫻魂會 楠氏等数名。当時敵が無いほどの心技体となっていた。

190cm 以上の巨漢も居るドイツ人達との腕相撲に全て勝ち、気分を良くした日大の班員（他の班員も含む）が

「日大節をやろう！」とスタート。

● ドイツ警備員 2 名が飛んで来て注意、日大節をとり続ける私の肩と腰を掴む。（踊り始めて 20 秒もしない内に）

「校歌・日大節等を途中で止めるべからず」との日大応援団の確約？のとおり

警棒・拳銃らしき物を持った**ドイツ警備員 2 人を振りほどいて日大節を踊り続ける**。

怖さは吹っ飛んでいる。気がつけば ビアガーデンの多くの外国人のお客 40 名以上も手拍子・奇声等で参加。

拍手隊の中には先程の腕相撲ドイツ人仲間が居た為か？ 私の気迫が伝わった為か？ とにかくドイツ警備員は

「日大節」を止めさせる事を諦めた。

● ホテルへの帰路：　ドイツ旅行代理店の日本人の方曰く

「今まで日本人や外国の人達が、大きな声で騒いだり、踊ったり 、 、 しかし警備員がそれを止めていた。

今日はじめて最後まで踊る事が出来たんです、 こんなに嬉しい事はありません」 との事。

※　今 思えば、「撃たれ無かった事」「ドイツ人と腕相撲をやっていた事」 等も良かった、と感じています。